

令和6年度 第3回国立市文化財保護審議会 議事録(要旨)

1. 日 時 令和7年1月20日(月)午後3時10分から
2. 会 場 国立市役所 委員会室
3. 出席者 白井委員、佐伯委員、和田委員、杉田委員、馬場委員、長田委員
[事務局] 井田課長、大西係長、濱中職員、萩原職員、竹尾職員、由良職員
4. 内容

【議題】

(1) 前回審議会議事録について

前回審議会議事録の説明をし、確認された。

(2) 旧国立駅舎木製改札について

事務局より資料に沿って説明が行われた。

保護審議会としては、建物が文化財であるので、建物の外観は変えることなく、運用すべきだと考えている。改札がそのままの形状で利用できない方には、インターホン等で係員を呼んでもらい、二つあるうちの一つの改札を利用時のみ、係員が取り払うので、そちらから入退場して頂きたいと考えている。しょうがいしゃ団体は、以前の話し合いの際は、一つの改札は常時取り払っておき、夜とイベントの時のみ、二つの改札は設置してほしいとの要望であった。

今後の進め方については、旧国立駅舎を担当する課が以前とかわったこともあるので次回の保護審議会の際に、新担当課のまちづくり振興課も同席して、車いす利用者だけでなく、様々なしょうがいをお持ちの方に対応できるような体制を作っていくよう、検討を進めていくこととなった。

【報告事項】

(1) 文化財ウィークにてについて

事務局より資料に沿って説明が行われた。

(2) 旧本田家住宅について

事務局より資料に沿って説明が行われた。

外構工事において、南と東に木塀を造るにあたり、事前の埋蔵文化財調査を行ったところ、古墳の周溝らしきものが発見された。また、8世紀の土師器の坏の破片も出土した。祠や溶岩のある富士塚だと思われている築山が、墳丘を利用して造られた可能性も出てきた。引き続き記録はとっていく予定であるが、現在は保存の仕方について東京都に相談している段階である。

使われ方がはっきりしていなかった本田家中の2階について、近隣の地域の旧本田家と近い時代の医家の古民家を参考にしてはどうかと、委員の方から複数の古民家の紹介を受けた。

(3) その他

国文学資料館共同研究「北野克旧蔵書画の基礎的研究」意見交換について、北野克氏が幕末生まれの13代本田家当主、定年（退庵）の親戚であり、書の米庵流の主催者である定年から克が、本田家に伝わる書画を受け継いでいたことを事務局から説明した。事務局側も北野克資料の行方について情報がなかったため、国文学資料館からの連絡を有難く受け止めている。

○次回の文化財保護審議会日程については、後日日程調整することとした。